

公募フォームの書き方 良い例・悪い例

応募時に記入頂く内容について、取り扱うテーマが興味深いものであっても、書き方によっては内容が十分に伝わらず、採択の判断ができない(不採択となってしまう)ケースがいくつか見られます。ここで公募フォームの記入内容について、書き方としての良い例・悪い例をCEDEC2025で行われた「【特別企画】CEDECの現在地とこれから ～CEDECタウンホールミーティング2025～」を題材にして例示致します。もちろんこの通りでないと採択されないというものではありませんが、ご応募頂く際に一考いただければ幸いです。

CEDEC運営委員会インタビュー

CEDEC 2017 [「講演者公募のTIPS ～詳細は隠さず丁寧に！ 自身の成長のためにも積極的にご応募を」](#)

CEDEC 2018 [「若手公募者向けメッセージ～若手の目線から見た経験や知見共有をぜひCEDECで」](#)

CEDEC2019 [CEDEC運営委員会インタビュー記事一覧](#)

CEDEC2020 [CEDEC運営委員会インタビュー記事一覧](#)

CEDEC2021 [CEDEC運営委員会インタビュー記事一覧](#)

CEDEC2022 [CEDEC2022公募へご応募を検討されている方へ](#)

CEDEC2023 [CEDEC2023公募へご応募を検討されている方へ](#)

CEDEC2024 [CEDEC2024公募へご応募を検討されている方へ](#)

CEDEC2025 [CEDEC2025公募へご応募を検討されている方へ](#)

	○ 良い例	× 悪い例
タイトル	【特別企画】CEDECの現在地とこれから ～CEDECタウンホールミーティング2025～	CEDECの歴史と運営業務について
内容	<p>ポイント: 講演内容について、目的や効果、手段等がタイトルを見ただけでも想像でき、内容への誘導につながっている。</p> <p>このセッションでは、CEDECのこれまでの歩みと現在の取り組み、そして今後の展望について参加者の皆様と議論する「タウンホールミーティング」を、CEDEC特別企画として開催します。CEDECは20年以上の歴史がありますが、その間にゲーム開発の在り方は変化し、CEDECに求められる役割も少しずつ変わってきました。運営委員会としてもそれに応じて様々な取り組みを行ってきましたが、その詳細をお伝えする機会や、参加者の皆様から直接ご意見を伺う場は、これまで十分に設けられていませんでした。</p> <p>そこで本セッションでは、CEDECの開催概要や運営体制、コロナ禍での対応、近年実施してきた改善施策などを共有し、事前にいただいたご意見や当日のリアルタイムでの声も取り上げながら、これからのCEDECの在り方について皆さんと共に考える「タウンホールミーティング」を開催します。</p> <p>CEDECは単なる技術カンファレンスではなく、技術者同士のつながりを育むコミュニティでもあるべきだと私たちは考えています。皆さんと一緒に、CEDECの未来についてディスカッションできればと思います。</p>	<p>ポイント: 対象が広く抽象的な表現が使われており、一見しただけでは内容が不明なため興味を引きにくい。</p> <p>本セッションでは、CEDECについて幅広く取り上げます。これまでの歴史や現在の状況、今後の方向性などについても触れる予定です。参加者の皆様と一緒に意見交換を行い、さまざまな観点からディスカッションできればと考えています。</p>

ポイント:

講演の経緯や、取り組んだ課題、得られる効果など、どういった

ポイント:

セッション内で話される具体的な内容が不明なため、受講者

	<p>内容の講演かについて具体的かつ分かりやすくまとめられている。</p>	<p>が有用なセッションであるかの判断がつきにくくなってしまっている。</p>
受講スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・CEDECというイベントに関心をお持ちの方(参加形態や職種、キャリアは問いません) ・技術カンファレンスの企画・運営や、コミュニティ形成に興味のある方 ・ゲーム開発業界の動向や技術者間のつながりに関心のある方 ・CEDECに対するご意見や改善案をお持ちの方 	<p>特に必要なスキルや知識はありません。どなたでもご参加いただけます。</p>
	<p>ポイント:</p> <p>聴講者が受講セッションを選択する際に参考になるように、このセッションの対象者が明確になっている。</p>	<p>ポイント:</p> <p>セッション内で話される具体的な内容が不明で、対象の設定が広すぎるため、具体的に対象となる聴講者を明確にできる書き方が望ましい。</p>
得られる知見	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのCEDEC運営の取り組みと、今後に向けた方針 ・大規模な技術カンファレンスを運営する際の組織体制や施策検討のプロセスと留意点 ・技術革新やコロナ禍など、時代や価値観の変化に対応するイベント運営のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・CEDECについて知ることができます。 ・イベント運営やコミュニティに関する話を聞くことができます。
	<p>ポイント:</p> <p>このセッションを受講することでどんな情報や知見が得られ、恩恵があるのかが端的にまとまっている。</p>	<p>ポイント:</p> <p>本講演ならではの得られる知見や受講する意義について書かれていない。</p>

詳細

● セッション趣旨・目的:[10分]

本セッションは、CEDECの20年以上にわたる歴史と変遷を振り返りつつ、今後のCEDECの在り方について参加者と共に考える「タウンホールミーティング」です。事前アンケートやリアルタイムで寄せられたご意見をもとに、運営委員会の取り組みや課題、今後の方向性について率直に共有し、参加者の皆様と双方向でディスカッションを行います。CEDECが単なる技術カンファレンスにとどまらず、技術者同士のつながりを育むコミュニティであるべきという観点から、未来志向の意見交換の場を目指します。

● CEDECおよび運営委員会の現状説明:[10分]

CEDECの概要、規模、参加者属性、主要イベント(CEDEC AWARDS、Developers' Night、PERACON等)を紹介。
運営委員会の構成や年間運営スケジュール、委員会の多様性・特徴、運営体制の改善施策(ハイブリッド開催、交流ラウンジ設営、CEDEC Lightning 導入等)について説明します。
運営委員アンケート結果も交え、現場の課題や満足度、改善の取り組みを可視化します。

● 参加者から多かった意見・要望の紹介と対応状況:[15分]

講演者のモチベーションや評価指標、若手登壇者支援、プログラム構成(ラウンドテーブル・VA講演の充実、セッション被り・アーカイブ延長、CEDEC Lightningの継続等)、視聴環境やWebサイトの改善要望、運営体制・情報公開への関心、現地体験の強化(Developer's Night、Ask the Speaker、食事・休憩等)、地方・海外との接続強化、価格・アクセス負担軽減など、幅広いご意見を要約して紹介します。
それぞれの意見に対する運営委員会の現状の対応や今後の検討方針について、正副委員長より説明します。

● まとめ:[5分]

CEDECの現状と課題、今後の方向性について整理し、参加者の皆様と共にCEDECをより良い場にしていくための協力を呼びかけます。

● ディスカッション・質疑応答(Ask The Speaker)

Ask The Speaker形式で参加者とのディスカッションを実施。リアルタイムで寄せられた質問や意見に対し、運営委員がベストエフォートで回答・議論します。CEDECの未来像や、より良いイベント運営のためのアイデアを参加者と共に考えます。

<本講演の特徴>

CEDEC運営委員会の現役メンバーが登壇し、運営の裏側や課題、改善の取り組みを率直に共有。
参加者の声を積極的に取り入れ、双方向のディスカッションを重視。
CEDECの「伝統」と「変革」の両立、コミュニティとしての価値向上を目指す特別企画。

ポイント:

講演内容が項目順に分かりやすくかつ具体的にまとめられており、実際の講演で話される内容が正確に把握でき、採択の判断がしやすい内容になっている。
また、各項目にどれくらいの時間を割くかの時間配分も書かれているので、それぞれの項目がどの程度の密度になるかについて読み取れる点も判断の参考になる。

本セッションでは、CEDECの歴史や現状、今後の展望について幅広く取り上げます。参加者の皆様と一緒に意見交換を行い、さまざまな観点からディスカッションを進めていきます。イベントについて網羅的に取り上げるので、CEDECが好きな方には興味を持って頂ける内容になっています。CEDECが初めての方にも分かりやすく説明します。

ポイント:

「詳細」欄については講演内容自体の価値を審査するための詳細情報になるため、抽象的な書き方では正確な判断が出来ないため、実際の講演にて話をされる具体的な内容の記載が必要。

・具体的な講演内容が記載されていない

「CEDECの歴史や現状、今後の展望について幅広く取り上げる」「さまざまな観点からディスカッションを進める」など、抽象的な表現が多く、実際にどのようなトピックや事例を扱うのが明確ではない。

・セッションの構成や時間配分が不明

どの話題にどれくらいの時間を割くのか、どのような流れで進

行するのが書かれていないため、講演の密度やバランスについて審査できない。

・本講演ならではの独自性や新規性が伝わらない
「イベントについて網羅的に取り上げる」「CEDECが好きな方には興味を持って頂ける」など、他のセッションでも言える一般的な説明にとどまっており、審査員が「今求められているトピックか」「過去に類似の講演がなかったか」を判断できない。

・受講者が得られる知見やメリットが曖昧
「分かりやすく説明します」といった記載はありますが、受講者がどのような知識や情報を持ち帰れるのかが具体的に示されていない。

※注:「詳細」の内容は講演前にWEBに掲載されることはありません。講演内容の審査にのみ使われる情報となりますので、できるだけ当日話す内容に近い具体的な記載をお願いします。

上記はレギュラーセッション(60分)の公募例になります。

その他の各セッション形式については、情報の精度は上記の例を参考に、各セッション形式特有の記入ポイントを下記に補足致します。

ショートセッション(25分)	短い時間での講演となりますので、講演のポイントをより明確にご記載下さい。
パネルディスカッション(60分)	議論のテーマに加えて、パネリストについては確定ではなくても候補者の明記をお願い致します。 人数については司会者(モデレータ)とあわせて3名程度を目安に、内容に応じてご検討の上明記して下さい。
ラウンドテーブル(60分)	CEDEC2025での実施にあたっては、応募要項「ご注意いただくこと」の「8)ラウンドテーブル・ワークショップ・インタラクティブセッションの実施について」をご確認ください。
インタラクティブセッション	デモンストレーションを行う場合には説明資料として分かりやすい動画があることが望ましいです。 ※但し、必須ではありません。
ワークショップ	CEDEC2025での実施にあたっては、応募要項「ご注意いただくこと」の「8)ラウンドテーブル・ワークショップ・インタラクティブセッションの実施について」をご確認ください。
チュートリアル	講義テーマの詳細に加えて、なぜそのチュートリアルを今やるべきかの背景についても詳しくご記載下さい。
CEDEC CHALLENGE	実施内容の詳細に加えて、下記の各項目についても詳細をご記載下さい。 <ul style="list-style-type: none"> 参加者の手配方法(招待か募集か等。またその選定基準や方法も) レビュアーや審査員のプロフィール 使用する機材、会場に必要な設備等 特別な準備が必要な場合の詳細

- 実施場所についての希望
- 当日の運営体制

審査における確認ポイント:

上記の記入例に則って頂いた場合でも、審査の際に下記のような判断により不採択となるケースも多く見られます。

1例1例を具体的に取り上げることはできませんが、下記に該当する(と判断される)ような内容になっていないか、ご応募の際に改めて見直して頂けると幸いです。

- ・詳細な説明や具体例の記述が不足している。
- ・(技術的に)特筆すべき点が明確になっていない。
- ・具体的な手法についてあいまいな部分がある。
- ・取り組まれた内容に対する結果が記載されていない。
- ・一般事例や過去事例と差別化された、本講演ならではの内容を読み取ることができない。
- ・受講者にとって有用なセッションであると判断ができない。
- ・受講者が得られる知見があると判断ができない。